

第34期第16回研究会「橋下政治とメディア」（ジャーナリズム研究・教育部会企画）のご案内

日 時：2015年6月6日（土）14:00～17:00

場 所：上智大学大阪サテライトキャンパス

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-12-8 サクラファミリア 2階

<http://www.sophia-osaka.jp/access/index.html>

問題提起者：渡辺久哲（上智大学）

南 彰（朝日新聞大阪本社社会部）

奥田信幸（毎日放送報道局社会部）

司 会 者：音 好宏（上智大学）

それまでの弁護士、テレビタレントの活動による圧倒的な知名度を武器に、2008年の大阪府知事選で当選した橋下徹氏は、逼迫した大阪府の財政再建を訴える一方で、国政についても積極的に発言を続けているが、2010年には広域行政による「一つの大阪」を目指す大阪都構想を発表。この大阪都構想を実現を掲げる地域政党として「大阪維新の会」を旗揚げし、自らが代表に就任する。

その歯に衣着せぬ弁舌と政治的なパフォーマンスの上手さもあって、橋下氏は有権者からの高い支持を獲得。大阪維新の会は、2012年9月に、自民、民主、みんなの党から離脱した国会議員が加わることで、「日本維新の会」に衣替えをし、橋下氏は、その代表に就任する。国政における民主党、自民党の二大政党に対抗した第三極の中心的存在として、そのプレゼンスを高めていく一方、民主党政権への失望感が漂うなかで行われた2012年の総選挙では、自民党が政権に復帰すると共に、日本維新の会は国政における第3党にまで躍進する。勢い、中央メディアは、橋下氏の動向を政局と結びつけて報じる傾向を示していく。このような、橋下氏の一連の政治運営や、その派手な政治手法に対しては、ポピュリズム的メディアパフォーマンスとか、ネットポリティクスといった否定的評価が、常につきまとった。

他方、前後して橋下氏は、大阪都構想などの政策実現を目指して、大阪府知事の任期を3ヵ月あまり残したまま2011年11月の大阪市長選に出馬し、当選。その後は、大阪市長の立場で、大阪都構想の実現を訴え続けている。そのことから解る通り、橋下氏自身は、政治家となって以来、地方自治体たる大阪からの政治改革の立場を崩しておらず、在阪の地元メディアも、その点に着目した報道がなされてきたことも、また事実である。

ただ、その橋下人気も陰りを見せ始める。2013年の参院選挙、14年の総選挙において、日本維新の会は、国政でのそのプレゼンスを高めるほど議席を伸ばすことは出来ず、他方において、「大阪都構想についても、その実現性を疑問視する声は多い。そのようななか、橋下市長は、今年5月に「大阪都構想」に対する有権者の信を問う住民投票の実施を決めた。

本研究会では、2000年代末からの橋下氏の一連の政治的パフォーマンスとその支持層の政治意識について注目し、意識調査を含め、分析を行ってきた渡辺会員に、橋下政治と政治意識との関係性について報告してもらうとともに、橋下氏の政策とその政治手法の取材を担当してきた二人の現役記者に、全国メディアと地元メディアとの温度差も含めて報告してもらう。その上で、橋下政治に代表されるメディア・パフォーマンスの強い政治運営の今日的意味について、参加者と共に広く議論をしたい。

なお、この研究会は、上智大学メディア・ジャーナリズム研究所との共催で開催する研究会である。